

第2回 モビリティサポートモデル事業有識者委員会 議事概要

1. 開催日時等

日 時： 平成22年3月25日（木） 15：00～18：00
 場 所： 中央合同庁舎2号館地下1階 国土交通省第2会議室A
 出席者： 委員長 岡部 篤行 青山学院大学総合文化政策学部 教授
 委員 竹中 ナミ 社会福祉法人プロップ・ステーション 理事長
 委員 寺部 慎太郎 東京理科大学理工学部 准教授
 委員 古屋 秀樹 東洋大学国際地域学部 教授
 委員 保井 美樹 法政大学現代福祉学部 准教授
 NPO法人地域経営支援ネットワーク 理事
 事務局： 国土交通省 政策統括官付参事官付

2. 委員会における意見等

(1) 各協議会の取組について

協議会の名称	有識者委員会からの主な意見
いすみ市モビリティサポート事業推進協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・居住者が何回か利用するなかで、常に必要な情報と1回だけ見ればいい情報の傾向が分かると、これから情報コンテンツを作っていく人にとって有効である。
「東京ユビキタス計画・銀座」実施協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・官中心ではなく、基本的に民でビジネスを広げていくという意見は共感する。今後の展開に期待する。 ・一般事業者が参加するために、将来的には携帯電話でucodeを読み取る機能の付加が望まれる。
すみだ次世代モビリティ開発コンソーシアム	<ul style="list-style-type: none"> ・墨田区内の中小企業の参加が面白い。 ・ビジネスとして成立するためには付加価値が重要となる。
KOBECARD協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者向けの携帯端末でも使えるとありがたい。 ・長期的に運用していくためには、情報が陳腐化しないよう、バス事業者が自ら時刻とルートを変更していくシステムを作る必要がある。 ・地域のバス事業者の積極的な関与が望ましい。
今井町ユビキタス計画協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史がある場所と最新の機器との組み合わせがよい。住んでいる方々と観光が一体化しているのは、住民の日ごろの連携ができているからと考える。 ・観光客が必ず立ち寄る場所で端末の貸し出しを行っているのは効率的である。 ・美術館の中で、音声ガイドを持って回っているものがあるが、その町並み版という感じが大変よい。 ・住民の方が出演して喋るのもよい。

室戸ジオパークモビリティサポート検討協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・動画とフラッシュを使っているのはおもしろい。 ・将来的にエアタグが使えるようになるとよい。 ・事業継続に向けた運営面の課題として、コンテンツの有料化を検討とあるが、できれば無料のまま工夫してやってほしい。
天神・大名地域Wi-Fi化推進協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・市販の携帯端末を使って、非常に使いやすいシステムであり興味を持った。 ・移動した経路が表示されるのは、観光客にとって大変よい。 ・今後広告収入を得てビジネスモデルにとの意向だが、どの程度多くの人に使ってもらえるかによることになる。

(共通)

いずれも当初の計画通りまたは計画以上に事業が進められた。今後の継続運用について期待する。

(2) 成果の取りまとめについて

水平展開するためのノウハウを技術面から取りまとめた表はわかりやすいので公開すべき。

次年度のモデル事業に対して、今年度の経験を表や、ケースに応じたフローチャートなどの形でアドバイスできるといいのではないか。

次年度の成果も踏まえた上で、次年度以降の公開の仕方について検討すること。

(3) 平成22年度モビリティサポートモデル事業の実施(案)について

歩行空間ネットワークデータを作っていくことは非常に重要なインフラであると考える。

歩行空間ネットワークデータの活用について、安全の話に踏み込むのではなく、ICT、特に携帯電話を使って移動をしている障がい者の方たちに、情報をより多く提供するという前向きな発想で考えるべき。

車いすの方が観光地に来て、段差のない道や車いす対応のトイレがどこか調べることができるのも必要である。

歩行空間ネットワークデータを活用し、ユニバーサルな取組と、地域振興となるような取組を進めて欲しい。

以 上